

平成30年度 正智深谷高等学校自己評価シート

目指す学校像	建学の精神「選択」「専修」を踏まえ、 1. 自己肯定感を育み、他者を認めることができる人間を育てる。 2. 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3. 夢(ビジョン)を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。
---------------	--

第三者評価委員会 (第三者評価委員 3名) 開催日 3月14日
--

学校評議員 学校評議員 5名

重点目標	1. 入学者の定数確保と埼玉工業大学への内部進学者の増加 2. 教育指導力の充実と向上 3. 浄土宗門関係学校としての教育推進 4. 危機管理体制の充実と再構築
-------------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学校関係者会議		
(学校評議員 1名)	開催予定日	
(学校関係者会議 11名)	6月16日	2月9日
(教職員 15名)		

学校自己評価					第三者評価委員及び学校関係者評価			
番号	現状と課題	評価項目	年度目標		評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	委員からの意見・要望・評価等
			具体的方策	方策の評価指標				
1	・県北部の中学校の生徒数は減少傾向にある。定員の安定した確保のためには、より質の高い教育を行うなどの特色化を進め他校との違いを鮮明に打ち出すことが必要である。 ・埼玉工業大学は、充実した施設・研究、そして計画的な広報活動により、志願者増に努めている。本校同様、定員の安定した確保のためには、本校からの内部進学者の増加に協力することが重要である。	・本年度進めている本校の教育改革に対する受験生・その保護者及び地域からの評価。 ・入学者数は360名(学則定員の90%)以上を維持し、内部進学者数は45名(埼玉工業大学入学定員の9%)以上、かつ文系学科入学者数の増加。	・近隣の公立高校及び競合する私立高校とは異なる特徴ある教育を実践する。 ・中学生やその保護者にも有意義な情報を積極的に発信する。 ・高大連携委員会の提言を実現させるために「埼玉工業大学と正智深谷高校との高大連携実施委員会」が積極的に活動するように努める。	・私学として建学の精神を人間形成の柱とした教育課程を編成して実施しているか。 ・SHIPに基づく新たな取組をPRできたか。 ・HPにより、最新かつ興味を惹く情報の提供を継続して行っているか。アクセス数が昨年度より何%増加しているか。 ・新企画の映画館での学校PRコマーシャルは効果が出たか。 ・新1年生予定者360名、埼玉工業大学への内部進学者が45名を越えたか。 ・高校教育改革に対応できる特色化が具体的に進んでいるか。	・日課表、1学年コース、教育課程の変更やSHIPに基づくSSSなど21世紀型教育の取組が始まった。G-CATプログラムも順調にスタートした。 ・部活の記事について古いものがあつたが、アクセス数は9月、1月が非常に多かった。 ・映画館での本校コマーシャル動画は、問合せも多く受験生等が興味・関心を抱いた。 ・埼玉工業大学への進学者は23名、本校入学予定者は332名であった。	B	・本校の新しい教育の取組をさらに周知すること。HP、学校説明会、校外説明会等において、より効果的なPR活動を実施する。 ・埼玉工業大学の受験状況は良好である。内部進学者の増加を目指す新たな取組を高大連携で実施することも必要である。	・各種の施策について学校の努力を感じる。少子化の中、周りの目は学校の特色、実績や世間の風評等で判断される。学力の実績向上、スポーツの全国レベルでの活躍、学校独自の德育教育に力を入れていただきたい。(第三者) ・映画館におけるコマーシャルフィルム上映は効果的であった。(学校関係者) ・地元小中学校ではあいさつと声掛けで街づくりをしている。高校でも挨拶のできる生徒の育成に努めていただきたい。(第三者) ・小学校で正智生が陸上指導など、交流を深めてくれている。人と関わるのがキャリア教育に繋がる。(第三者)
2	特別進学系・総合進学系・スポーツ系の3つの系統から成る指導の総決算および、現在進行中の本校教育改革の正しい理解と課題の解決を図ることが必要である。 生徒一人一人の学力の向上を図る。生徒が自己実現に向かい、意欲的な学習に取り組めるような系統的な指導が必要である。	・社会の変化に適切に対応した教育内容の実施。 ・国公立大学への進学実績30名以上の達成。 ・4年制大学への現役合格率80%台の継続。	・担任と教科担任が更に連携することにより指導力の向上を図る。 ・成績不振者への支援対策を充実させる。 ・校内研修の充実を図る。 ・本校のグローバル教育を進める。 ・教育環境の充実を図る。	・適切に宿題を課すことによって、生徒の自主的な学習姿勢の育成を図る。継続的な家庭学習が行われているか。 ・「分かりやすい授業」と「基礎学力の定着」を図るための教育が成されているか。 ・コミュニケーション能力を育成するための指導が適切に行われているか。 ・研修の成果が生徒に還元できたか。 ・大学入試共通試験等に対応できる準備(校内改革)が順調に行われているか。 ・補習や駿台サテネットの実施により、本校の教育で、受験対応体制を対策は整えているか。 ・iPadを授業に取り入れ、教科会議等で共有を図り、教員のスキルアップを図ることができたか。	・適切な時期に教科毎に宿題を課すことができた。しかし、与えられた宿題だけでは習慣が身についたとは言えない。 ・AL・ICTを用いた教育の実践により、積極的に授業に取り組むことができた。 ・プレゼンテーションを取り入れたALにより、人前で話す機会も増え、短時間で要点を押さえたスピーチができるようになった。 ・SSSにおけるネイティブ英会話、ICTを用いた授業、ENの助言など新しい取組は着実に進んでいる。	B	・SSSでのネイティブ英会話、英検対策の成果として、1年生の準2級合格者数は大幅に増加した。今後、多数の上級合格者をだすことが重要である。 ・SHIP推進委員会主催のICT、アクティブラーニングの研修会を定期的に開催してさらに教員のレベルアップを図る。 ・家庭学習習慣が身につくよう、授業で充実感を与えることが大切である。そのために、ICT活用や新しい教育の充実を図るなど授業改善に取り組む。	・様々な教材や指導方法があるが、まずは基礎学力の浸透が重要である。基礎学力が身に付いていないと応用につけられない。繰り返し身につくものや各種の実践問題で理解度を確認しながら自分の勉強スタイルを確立することが本来の姿である。(第三者) ・アクティブラーニングの一環として人前で話す取り組みを教科で工夫して特色あるものになるよう心掛けている。(学校関係者) ・ICT教育の展開など新しい実践を保護者も体験できる企画が準備できないか。(学校関係者) ・スポーツ系生徒の卒業後、スポーツ専門外の進路でも活躍できるような指導をお願いしたい。(第三者)
3	・浄土宗宗門校としての特色を生かし、仏教を通じて日本の伝統を踏まえた教育を実践している。昨年度、全国宗教情操教育研修会を実施することができた。 ・生徒指導体制は確立されており、生徒は校則を遵守し規則正しい生活をおくっている。また、学習・部活動・学校行事に意欲的に取り組んでいる。自己肯定感を育むことと同時に自ら考え、自ら行動できる能力を育成することが必要である。	・基礎教養として茶道や華道等を学び、情操の涵養が図られている。 ・社会科の学習においては、時代ごとに宗教が果たした役割を理解させながらの学び。 ・総合的な学習の時間における宗教の授業が生徒の人格形成に寄与しているか。	・建学の精神や校訓である「選択」と「専修」に基づく人間形成が実現できているか、更に一人一人の適性に合った人間形成が行なわれているかに着目する。 ・日本人が知っておく習慣や伝統行事について、基本的な知識を身につけられたか日々検証していく。	・建学の精神の具現化に向けた新たな取り組みができたか。 ・宗教行事(精霊会など)を学校行事に組み込み体験させ、一般化した仏教用語や仏教起源の習慣を学んで宗教(仏教)が日本文化形成への係わりと果たした役割を理解しているか。 ・宗教教育においては、尊ぶべきものや守るべきものを学んで尊厳を持って生きることが学べる。 ・浄土宗宗門校の特色を生かした取り組みで、PTA、地域との連携を深めることができたか。	・本校の宗教教育は建学の精神を理解させ、凡夫の精神を理解し校訓である「選択・専修」についてを体得させることが目標である。これを踏まえ実践している。 ・1年キックオフキャンプでの宗教体験、3年増上寺研修、精霊会、成道会などの宗教行事は適切に行なわれ、正しい知識を教えることができた。 ・PTA全ての支部が本校御影堂で写経体験を実施することができた。各回とも30名以上の保護者の参加があった。	A	・キックオフキャンプにおける宗教体験をさらに充実させるための取り組みを検討する。 ・建学の精神を具現化することが課題である。例えば、簡単なことだが、日常生活の中で自然に合掌して食事をすること。また、思いやりや優しさをもって他人と向き合えることができること等。	・他校にない素晴らしい教育環境にあることを教員、生徒、保護者が感じとって欲しい。生活、信条、情操の学びの場で青年期を過ごせることではない。人生の中で振り返ってもなかなかあるものではない。宗教を特別な事と捉えず、宗教の学びを日常に関連付けて学びの奥深さを体得させて欲しい。(第三者) ・新入生研修の時にしか宗教体験(礼拝)がないのは、もったいない。PTA支部事業として、写仏や茶道以外での礼拝体験も計画していただきたい。(学校関係者) ・恩を大事に感じ取れる人になって欲しい。(学校関係者)
4	・「学校は安全な場所であればならない。」体制は概ね整っている。さらにどのようなリスクに対しても適切な対応ができるよう取り組むことが重要である。 ・いじめの根絶や不登校への対応は適切な指導が行われている。事件・事故を未然に防ぐため分掌間の連携や外部機関との連携を強化することが必要である。	・健康と安全に関する対応やカウンセリングなどの支援体制の充実。 ・学校事故への対応並びに自然災害発生に備えた訓練などの推進。	・常に生徒の状況に注意するとともに教職員間の情報共有と連携により協力体制を整える。 ・防災訓練を円滑に実施する。 ・警察や消防と連携するとともに、AEDの利用に関しては生徒も扱えるように練習する。 ・校内環境美化を推進し、災害時における障害物を撤去する。	・安全点検は適切に行われているか。また、危機管理意識の向上が図られているか。 ・正智ウェブの活用が適切に行われたか。 ・校内防災マニュアルに基づいた防災訓練が円滑に行われたか。 ・自然災害等における緊急対応ができたか。 ・毎月の安全点検・修繕が適切に行なわれているか。	・定期的及び毎朝の校長の校舎内点検等により事故防止及び教職員の危機管理意識を醸成させた。 ・台風等の緊急時には正智ウェブにより適切に生徒・家庭への連絡ができた。 ・常に管理職後方のホワイトボードに地震対応マニュアルを掲示していたため、震度4の地震発生時にも速やかに対応することができた。	A	・大きな施設事故はなかった。今後も危機管理意識を常に持ち、災害防止に努めていく。 ・正智ウェブは適切に行なうことができた。より効果的に活用するために新たな分類(例えばスクールバス利用者)を加えるなどの工夫も必要である。 ・災害時の避難拠点としての役割を果たす協定で24,000本の「ふっか水」を備蓄した。その管理を徹底するとともに、さらに深谷市との連携を図っていく。	・予算内で対処できない安全対策については、危険可能性を予測したり、校内関係者の声をとりあげ、システムを構築して対応することが基本である。(第三者) ・校内で余計な心配をせずに相談できる環境を整えて欲しい。また、PTAも保護者と教員との信頼関係をより深められるような企画を考えていくべきである。(学校関係者) ・オリンピックを好機と捉え、深谷を訪れる外国人観光客や選手たちに深谷市について英語で説明・案内できるような生徒を育成して欲しい。(第三者) ・夜間の災害の対応が大切である。即行動できる体制を整えることが大切である。(第三者) ・校内だけでなく通学路、不審者対応も重要である。(第三者)